



令和6年度 第1号
[通巻 137号]
耶麻地区小学校長会
令和6年7月1日

巻頭言

「学校、地域を俯瞰する視点で」

耶麻地区小学校長会会長

喜多方市立第二小学校長 武藤 幸意

私が教員になったのは昭和最後の年。当時の土曜日は、半日授業であり、初任校は、持参弁当で、子どもと一緒に食べるようになっていました。赴任後、初めての土曜日、早起きして気合を入れてやっと作った弁当でしたが、弁当を忘れた子どもにその弁当を食べさせ、自分は昼食を抜いた苦しい午後が教員生活のスタートだったと記憶しています。あれから37年が過ぎ、休みは週2日で授業時数は減ったはずなのに、教科は生活科、総合的な学習、特別の教科道徳、外国語と増え、小学校ばかり様々なカリキュラムの変更が行われてきたような感じがします。このように書くと働き方改革の話と思われるかもしれませんがそうではありません。

昨今、声高らかに「学びの変革」や「授業改善」と叫ばれますが、ICTや教科担任制などハード面は時代に合わせて変わるの当たり前として、授業の進め方などは私たちが若いころからやってきたものと大きく変わらないと思うのです。

では今の私たちには何が求められるのでしょうか。本県の場合、ベテラン教員の大量退職に伴う若手教員の増加、再雇用教員の増加、保護者の教育観の変化、児童生徒の学校外環境の変化など、課題は山積みですが、学校経営の責任者としては、自校の課題を整理し、学校・地域全体を俯瞰する視点やそれを生かしたリーダーシップを発揮できる校長になることが求められているのではないかと思います。そのためには、校長会としては、学校規模の大小にかかわらず、一緒に課題を考えていきたいと思えます。ご縁あって、同じチームになりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

転出校長より

「耶麻地区からのエネルギー」

前 西会津町立西会津小学校長

会津教育事務所管理主事 菅家由起子

先日の出来事です。

「由紀子先生、お客様です。西会津小学校のKちゃんが来てますよ。」「え??？」

廊下に出てみると、4年生に進級し少し背が伸びて大人っぽくなったKさんがそこにいました。夏休みに海外に行くので、合同庁舎にパスポートを取りに来たそうです。「校長先生に会いたい。」という気持ちでお母さんと一緒に教育事務所を探し、訪ねて来てくれたのです。驚きとうれしさとその行動力に感動しました。子どもの無限のエネルギーを感じ、「私もやりたいことをあきらめないぞ!」と気持ちを強くしました。

現在、私は、会津教育事務所の管理主事をしています。教育事務所は3回目の勤務になります。売店の方や守衛さんにも「おかえりなさい」と迎えていただき、私なりに「楽しく」仕事をしています。そして、今年度は耶麻地区を担当させていただくことになりました。そのような状況なので、いわゆる「異動のストレス」がなかったのは本当にありがたいです。

新任校長として西会津小学校へ赴任してからの2年間、耶麻地区の校長先生方には本当にお世話になりました。私がやるはずだった校長会での発表や東北校長会参加を代わってくださった先生方には、多大なるご負担をおかけしました。感謝しかありません。5月下旬から所長・管理訪問で各校におじゃまさせていただいておりますが、校長先生方が生き生きと学校経営をされているお姿が私のエネルギーになっていきます。今後もしっかり

お願いいたします。 R5.7.31 西会津沖繩交流記念



転出校長より

「校種は変われど」

前 喜多方市立関柴小学校長

三島町立三島中学校長 酒井 康雄

耶麻地区における勤務は、喜一小の5年間、そして、関柴小の2年間です。特に校長として勤務させていただいた期間は、同地区内に喜一小の頃にお世話になった先生方が勤務されていたので、大変心強かったです。また、耶麻地区の小・中学校長会の皆様には、気軽に相談に乗っていただいたり、気さくにお力を貸していただけたりと、「耶麻は一つ」という安心感に支えられ、自分の教員生活において、とても居心地のよい思い出の場所となりました。

4月から中学校勤務となりましたが、今でも朝の日課として7時15分から朝の登校指導を実施しております。関柴小の頃は、集団登校を校門の前で迎え、始業時刻頃まで玄関前で子どもを迎えておりましたが、三島中は町外れにあるので、バス通学の生徒を学校付近で迎え、その足で町内を一周してきます。徒歩の生徒も少ないので、小学生の登校も指導しながら学校へ戻ってきます。そして、始業時刻ギリギリに車で送迎されてくる生徒を校門前で迎えるのが日課です。もちろん、雨の日は傘を差さずに雨合羽を着て富士笠をかぶり、初任の頃から使用している黄色いメガフォンをたすき掛けにして、町内を歩き回っています。

また、前任校に引き続き、校庭の草刈り作業も力を入れています。全会津中体連大会陸上大会に向けた整備、また、今年度は保育所・小・中学校連携の事業として本校の校庭を使った合同の運動会を行うこととなり、4月から草刈り機はフル稼働です。

本校は、国号252号から宮下ダム方面に入った道沿い（現在通行止め）にあります。毎日、校舎南側の杉林からキビタキのさえずりが聞こえます。機会があれば、ぜひお立ち寄りください。お待ちしております。

転出校長より

「笑顔あふれ、明日も来たくなる学校に」

前 喜多方市立熊倉小学校長

湯川村立笈川小学校長 前田 敬

喜多方市立熊倉小学校在職中は、耶麻地区小学校長会の皆様には大変お世話になりました。また、その間、研究部長まで務めさせていただき、大変貴重な経験をさせていただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

さて、私が着任しました湯川村立笈川小学校ですが、「会津のへそ」とも言われる会津盆地の中心に位置し、秋にはたわわに実った稲穂の風景が広がるのどかな田園地帯の中にある学校です。現在、児童数76名、教職員数17名と少人数ではありますが、保護者や地域の方々の温かいご支援とご協力のお陰で、充実した教育活動を展開することができています。

この笈川小学校の目指す学校像は「笑顔にあふれ明日も来たくなる学校」です。子ども達が、毎日、笑顔で安心して通える学校であるために、全教職員で子ども達を温かく迎え、子ども



も達が学校へ行くと「友達と学び合えるのが楽しい」とか「友達と遊んだりおしゃべりしたりするのが楽しい」とか「先生とふれ合えるのが楽しい」とか思えるような「楽しいことが待っている学校」を目指しています。そこで、特に、一人一人に居場所のある学級経営の充実を図り、互いに認め合い、励まし合い、高め合える児童を育てるとともに、児童主体の授業づくりの下、楽しく学び合う中で、思考力・判断力・表現力等を育み、確かな学力が身に付いた児童を育てることに、日々、力を入れて取り組んでいます。

最後になりますが、耶麻地区小学校長会の益々の発展と皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

学校経営あれこれ

「慣れた頃にやってくる魔物」

喜多方市立松山小学校長 穴澤 正志
新任の教頭先生が赴任した。とても優秀でテキパキと事務処理をこなしている。そんな様子を見ていると、新米教頭時代の自分の姿がよみがえり、背筋が凍る。

あの頃、教諭から教頭という職務内容のあまりの変化に疲れを感じていた。提出文書はいつもギリギリ。提出したところで、間違いの嵐。指導主事にどれだけご迷惑をおかけしたか。夜遅く職員室から見える真っ暗な景色に、自分を投影してばかりいた。同期の教頭先生方に迷惑をかけ続けて1学期終了。なんとか周りについて行ける程度になるまで1年を要した。

その後、ようやく教頭職に慣れかけた2年目の秋。地区音楽祭当日。車で40分ほどの会場に先入りし、係の仕事をしていた時、「児童輸送のバスが学校に到着しないのですが・・・」と同僚からの電話。目の前に暗黒のシャッターが降りた。「忘れた！手配していない！」その後、職員の秘密のリカバリーにより、なんとか発表時刻までに児童は到着した。

1年目はできたことが、2年目にできなかった。成長せず後退している自分がどうしようもなく後ろめたかった。

校長先生が会場に到着した。口を開きかけた私を遮って、校長先生は、「教頭先生、大丈夫。気にしないで。わははは。」と笑い飛ばしてくださいました。あの時の光景が1枚の写真のように脳裏に焼き付いている。(走馬灯候補として、ベスト10入りは間違いない。)

私は、これまでたくさんの方に支えていただいで生きてきた。再び校長職となり2年目となった。校長として再び魔物を近づけるわけにはいかない。

市町村・地区だより

「地域性の違いに」

喜多方市立豊川小学校長 杉原 智
4月に第一小学校から豊川小学校に異動して3ヶ月が過ぎ、学校が変わるとこんなにも違い

があるのかと感じています。

第一小学校勤務時は、校内外の課題と向き合い慌ただしく過ごす日々が続いていました。例を挙げると、授業を見るために校舎を一周回って校長室に戻ると、常に、机の上には、電話があったことを報せる付箋が数枚貼られていました。そして、1日に10件程度の電話が当たり前でしたが、豊川小学校では、電話は2日に1回程度です。おかげで学校のことに集中して取り組むことができます。

また、地域性についても、違いを強く感じています。第一小学校は、喜多方市の中心に有り、周りは商店街と住宅地ばかりで、農業科のための田んぼや畑を見つけることに四苦八苦しました。しかし、豊川小学校は、学校の周りには田んぼや畑が広がっており、歩いて2、3分の所に学校の圃場があります。また、豊川小学校は、過去に幾度も、米・食味分析鑑定コンクール国際大会で賞を受けており、農業科への思いが地域全体として高いことが分かりました。稲作一つを見ても、4月に種蒔きから始まり、田起こし(肥料撒きも)、田植え(筋引きも)、転ばし(苗と苗の間に溝を掘ると)、ここまで既に10時間以上の活動がありました。地域が変われば、自ずと取り組む活動も変わることを改めて感じています。



「転ばし」

市町村・地区だより

「喜多方市熱塩加納町」

喜多方市立加納小学校長 黒子 学
私が勤務している喜多方市立加納小学校は、熱塩加納町にあります。その熱塩加納町は、会津盆地喜多方市の北部に位置し、北は山形県米沢市及び西置賜郡、西は山都町に接し、東西16.5km、南北15.5km、町内の85%が山林となっている町です。積雪寒冷地であり、冬の降雪期には、およそ1～2m、山間部になると3mにおよぶ積雪があり辺り一面雪景色となります。

熱塩加納町の産業としては、有機無・低農薬

栽培を中心とした稲作(さゆり米)が有名です。さゆり米とまごごろ野菜の会の皆さんが提供してくださる食材を使用して、熱塩加納学校給食協同調理場が提供してくれる学校給食は、日本一との評判を得ています。

観光については、熱塩温泉、日中温泉、示現寺(平安時代初期に空海が建立)、佐原十郎義連の墓、ひめさゆり群生地、三ノ倉スキー場等があり、深い歴史と文化、大自然の恩恵を感じることができる町です。

2006年1月4日に喜多方市と合併する以前は、熱塩加納村のシンボルとして、村の花は「ひめさゆり」(平和の象徴)村の木は「杉」(天に向かってまっすぐ伸びる姿から躍進)村の鳥は「うぐいす」(住宅地の庭にまで飛来し美しい鳴き声で人々に愛されていることから民の融和)が設定されていました。

最後に、忘れてはならないのが日本のナイチンゲール「瓜生岩子刀自」です。彼女の功績は、皆様もご存じの通り今更述べる必要もなく、「野口英世」と並ぶ福島県の偉人の一人です。校長会の皆様、見学学習等の際には、歴史と文化、大自然に恵まれた熱塩加納町へ…。お待ちしております。

話の小窓

「恩送り」

喜多方市立姥堂小学校長 後藤 洋一
突然ですが、「ペイフォワード 可能の王国」という映画をご存じでしょうか。この映画は「主人公の中学1年生が3人に善意のバトンタッチをして、その3人がまた別の3人に善意のバトンタッチをしていったら、いつの日か世界中の人たちにその善意が伝わっていくのではないか?」という素敵なメッセージが込められた映画です。

「善意は、返すものではなく『送る』もの」そんな考えに共感し、「恩送り」という取組を始めたのが、NPO法人チームふくしまです。「恩送り」の発案者は副理事長である故吉成洋拍さんで、東日本大震災後、避難所での炊き出しボランティアを行うなど、福島を「同情の街から尊敬の街にする」ために努力してきました。

また、「障がい者雇用」や「子ども食堂」への支援にも取り組んできました。その中でも、彼の大きな夢の1つが「恩送り」を具体的な形とした「お互いさまチケット」という仕組みです。現在この仕組みは、福島の飲食店等をはじめ、広島や京都など全国に広がりつつあります。

このチケットの仕組みは、まず、お店に来たお客様が、支払いの時に、他の誰かのために代金を先払いすることで「お互いさまチケット」を購入し、そのチケットがお店に掲示されます。そして、別の誰かがその支払い済チケットを使うことで、無料または低価格で商品を受け取ることができる仕組みです。誰でも購入、利用することができ、「困ったときはお互いさま」の想いを形にした取組です。

本校でも、他の誰かのために今私たちができることを考え、総合的な学習の時間を中心に「姥堂小恩送り」をはじめています。

編集後記

6月のある日、校庭の片隅からカエルの鳴き声が聞こえてきました。

「モリアオガエルか……。そういえば、1年前もこの辺りから鳴き声、聞こえていたなあ……。」

モリアオガエルの鳴き声で年月を振り返る……。裏磐梯の自然の豊かさを感じると共に、このような素敵な環境で仕事ができることへの感謝の気持ちも忘れずにいたいと思っています。

1学期も終わりが近づいています。「できたこと」「できなかったこと」「まだ道半ばなこと」等、振り返ればきりがありません。まずは、これまで子どもたちや先生方、地域の方々の素敵な笑顔がたくさん見られたことに感謝し、夏休みを迎えたいと思います。



耶麻地区小学校長会 広報部

北塩原村立裏磐梯小学校長 村松 泰二郎